

東京キリストの教会 QT シリーズ ペトロの手紙

第3週 2020年9月7日-9月13日

〈9月7日(月) 第一ペトロの手紙 3:8-12〉

8 終わりに、皆心を一つに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。9 悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。10「命を愛し、幸せな日々を過ごしたい人は、舌を制して、悪を言わず、唇を閉じて、偽りを語らず、11 悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ。12 主の目は正しい者に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。主の顔は悪事を働く者に対して向けられる。」

解説

「終わりに、」から始まるこの箇所は伝えたいことのまとめですから、とても重要なことを意味しています。私たちは誰でも「幸せな日々」を過ごしたいと望んでいます。そのために必要なことをペトロは教えてくれています。おそらく言葉だけ聞けば、それが大切なことは良くわかっていることです。わかっていることと、それがあなたの人生になっているか、自分のキャラクターになっているかは、日々冷静に見つめ直す必要があります。

実践

- ① あなたは、家族や SG の皆の心が一つになるために、どのような取り組みをしていますか？そしてその取り組みがどのような効果をもたらしているのか書き出してみましょう。
- ② あなたは、家族や SG の中でどのような役割を持って、あるいは意識して作り上げていますか？その心や行いが家族や SG の皆に伝わっているでしょうか？
- ③ あなたの口は、聞くものに喜びを与えていますか？舌を制することは簡単ではないと思います。舌は心の中を反映します。高慢で批判や裁く心、傷ついて怒る心、落ち込んで自己憐憫な心。このような心は解決する必要がありますので、助けてもらいましょう。

〈9月8日(火) 第一ペトロの手紙 3:13-18〉

13 もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。14 しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。15 心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱えている希望について説明を要求する人に

は、いつでも弁明できるように備えていなさい。16 それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになるのです。17 神の御心によるのであれば、善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよい。18 キリストも、罪のためにただ一度苦しめられました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しめられたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。

解説

引き続き何が私たちにとって「幸い」なのかを考えさせられる箇所です。クリスチャンとして迫害は勲章のように言われます。迫害されればされるほど心が燃えて信仰がみなぎるような弟子はそうそういないように思います。おそらく多くの方は、人の目を気にしたり、不当に扱われることへの恐れが大きくなるのではないのでしょうか。伝道がとても得意な弟子がいる一方、苦手に思っている弟子も少なくないように思います。

実践

- ① あなたが熱心になっている善いことはなんですか？
- ② あなたが弟子であることで迫害された経験を書き出してみましよう。そして、兄弟姉妹と今週わちあひましよう。
- ③ 罪を犯したくないイエスが、罪を犯し死ぬはずだった私たちのために苦しんだことへの感謝の手紙を書きましよう。

〈9月8日(火) 第一ペトロの手紙4:1-3〉

1 キリストは肉に苦しみをお受けになったのですから、あなたがたも同じ心構えで武装しなさい。肉に苦しみを受けた者は、罪とのかかわりを絶った者なのです。2 それは、もはや人間の欲望にではなく神の御心に従って、肉における残りの生涯を生きるようになるためです。3 かつてあなたがたは、異邦人が好むようなことを行い、好色、情欲、泥酔、酒宴、暴飲、律法で禁じられている偶像礼拝などにふけていたのですが、もうそれで十分です。

解説

ペトロの生き方は、イエスの十字架の愛で完全に変わり、その確信から発せられる言葉はシンプルで力強く感じます。イエスの全生涯は、十字架につけられるための備えとでも言うことができ、ゲッセマネの園において、「できることなら、この杯を、わたしから過ぎ去らせてください。」という血の

したたかな祈りをささげられました。肉体における苦しみを受けるために、主は祈りをもってご自分を武装され、ついに、「わたしの願いではなく、あなたのみこころのままになりますように。」という祈りをおささげになるほど、父なる神にご自分をお任せになることができました。私たちも、肉体において苦しみを受けるときに、同じような心構え、つまり、心の中のいろいろな葛藤やもたえ苦しみがあろうとも、祈りによって、自分の魂の救いを主イエスにゆだねることを学び、歩いていくことが必要です。

実践

- ① あなたが今抱えている苦しみはなんですか？
- ② 神様に完全に委ねられるように、祈りによって武装しましょう。
- ③ 神様の御心に従っていくのに、邪魔しているあなたの罪は何でしょうか

<9月10日(木) 第一ペトロの手紙 4:7-11>

4:7 万物の終わりが迫っています。だから、思慮深くふるまい、身を慎んで、よく祈りなさい。
4:8 何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。4:9 不平を言わずにもてなし合いなさい。4:10 あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。4:11 語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力が、世々限りなく神にありますように、アーメン。

解説

ペトロは、困難な時代にあって神様の栄光を現す生き方がどのようなものであるかを伝えています。よく祈ること、互いに愛し合うこと、もてなし合うこと、賜物をいかして互いに仕えること。そのどれもが大切ですが、ペトロは先ず祈ることについて伝えました。イエスは十字架につく前にペトロとヤコブ、ヨハネをゲッセマネに伴いましたが、三人は起きていることができず眠ってしまいました。「あなたがたはこのように、わずか一時もわたしと共に目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」(マタイ 26:40-41)と言ったイエスの言葉は、生涯ペトロの心に刻まれる言葉となりました。試練の中でのイエスの祈りがペトロの祈りの原点の一つです。迫害という難しい状況の中にいるからこそ、祈りが全ての困難と思える状況や心の状態を超えて、神様の深い恵みと憐れみ、癒しと平安、喜びと希望に導くものであることを伝えています。

実践

① 4:7 は新改訳では「…。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい」とあります。難しい状況や試練に考えや心を支配されるのではなく、神様だけに集中する祈りの時間を持ちましょう。そのために、祈る前に自分の心を整えてから特別な祈りの時間を持ちましょう。

② 神様はそれぞれに「語る賜物」と「仕える賜物」を与えてくださっています。あなたにはどのような賜物が与えられているでしょうか。あなたの賜物を神様はどのように用いたいと思っているでしょうか。

<9月11日(金) 第一ペトロの手紙 4:12-19>

4:12 愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。4:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。4:14 あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくさるからです。4:15 あなたがたのうちだれも、人殺し、泥棒、悪者、あるいは、他人に干渉する者として、苦しみを受けることがないようにしなさい。4:16 しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者の名で呼ばれることで、神をあがめなさい。4:17 今こそ、神の家から裁きが始まる時です。わたしたちがまず裁きを受けるのだとすれば、神の福音に従わない者たちの行く末は、いったい、どんなものになるだろうか。4:18 「正しい人がやっと救われるのなら、／不信心な人や罪深い人はどうなるのか」と言われているとおりです。4:19 だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。

解説

第一ペトロの手紙は、12節から様子が変わります。12節の「愛するものたち」は英語のNIV訳では「Dear friends(親愛なる友へ)」、KJV訳では「Beloved(愛されし者、最愛の人)」という言葉で始まっています。それは厳しい迫害と弾圧を受けている弟子たちに対してペトロが強いつながりを感じており、また彼らに対する深い尊敬と愛を抱いている表れでした。だからこそ「燃えさかる火の試練」と表現されるほど心身共に追い詰められる厳しい弾圧に対して、何か思いがけないことが起こったかのように驚いたり、怪しんだりするのではなく、キリストの苦しみにあずかれる真の喜びを得て欲しいとペトロは望みました。弟子たちがキリスト者の名で呼ばれることが、どれほど神様の栄光を現すことであるかをペトロは信仰によって見ていました。

実践

① 今あなたの人生に起きている難しい状況、試練、艱難はどのようなものでしょうか。イエスは難しい状況の中で何を感じ、どのように思い、神様とどのような会話をしたのかを想像してみましょう。

② あなたは迫害されるほど熱心に福音を宣べ伝えたことがありますか。またクリスチャンということで最後に迫害を受けたのはいつでしょうか。その時に神様はあなたをどのように思っていたでしょうか。迫害の経験は、あなたのクリスチャンライフにどのような確信を与えましたか。

<9月12日(土) 第一ペトロの手紙 5:1-6>

5:1 さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。5:2 あなたがたにゆだねられている、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って、自ら進んで世話をしなさい。卑しい利得のためにではなく献身的にしなさい。5:3 ゆだねられている人々に対して、権威を振り回してもいけません。むしろ、群れの模範になりなさい。5:4 そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしほむことのない栄冠を受けることになります。5:5 同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、／「神は、高慢な者を敵とし、／謙遜な者には恵みをお与えになる」からです。5:6 だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。

解説

ペトロは長老たちに献身的に神の羊の世話をすることと群の模範になること、また年齢的に若い人たちや霊的に若い人たちに対しては服従ではなく敬意と神様への畏れをもって長老に従う必要があることを伝えました。そして群と呼ばれる全ての世代の兄弟姉妹に対しては、互いに謙遜を身に着けることを伝えています。なぜなら神様は人に溢れるほどの恵みを与えたいと望んでいますが、残念ながら人は素のままでは神に敵対するほど高ぶっている者だからです。

実践

①あなたにとって「謙遜を身につける」とは、具体的にどのようなことでしょうか。

③あなたが謙遜を身につけることによって、あなたの人生やあなたの人間関係はどのように変えられるでしょうか。また神様は謙遜を身につけたあなたに、どのような恵みを与えたいと望んでいるでしょうか。

<9月1日(日) 第一ペトロの手紙 5:8-11>

5:8 身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。5:9 信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭っているのです。それはあなたがたも知っているとおりに。5:10 しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イ

エスを通してあなたがたを永遠の栄光へ招いてくださった神御自身が、しばらくの間苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてください。5:11 力が世々限りなく神にありますように、アーメン。

解説

「敵」という言葉は「訴訟する相手」という言葉が由来になっており、また「悪魔」という言葉はギリシヤ語で「中傷するもの、悪口を言うもの」という意味があります。中傷し合ったり悪口を正当化する教会、罪に妥協する教会、問題をなかなか解決できない教会、また霊的に幼い教会を悪魔は迫害によって簡単に崩壊させることができます。霊的なスキがないか悪魔はいつも探しています。だから身を慎み、目を覚まして本当の敵が誰であるのかを見極めること。また真の敵である悪魔に対し、信仰よって抵抗しなさいとペトロは言います。なぜなら、私たちがイエスを通して見ているのは、あらゆる恵の源である神様の支配でありその神様の栄光だからです。

実践

- ① 「身を慎み目を覚ましている」とは、あなたにとって具体的にどのようなことでしょうか。
- ② あなたにとって堅く信仰にたち、悪魔に抵抗するとは具体的にどのようなことでしょうか。それを実践していきましょう。